1. 鉄道運行回数
2. 航空機運航回数と乗降客数
3. 船舶運航回数と乗降客数

1. 鉄道運行回数

1989年３月現在の鉄道の営業キロ数は、JRが２万919kmで、その複線化率は31.1%、電化率は50.1%である。JR以外の民営鉄道は、軌道を含め6535.2kmである。1988年４月から1989年３月までの１年間の旅客輸送量は、JRが77億6724万人(うち新幹線が２億2776万人)の2176億人km(うち新幹線が644億人km)であり、JR以外の民営鉄道は129億8079万人の1442億人kmで、合わせて207億4804万人の3618億人kmである。同じく貨物輸送量は、JR貨物が5570万ｔの230.3億ｔkmであり、JR以外の民営鉄道は2664万ｔの4.5億ｔkmで、合わせて8234万ｔの234.8億ｔkmである。我が国の国内総輸送量に対する鉄道輸送の割合は、旅客が人数では28.4%（1986年４月から1987年３月までの１年間では34.9%)、人キロでは30.4%(同じく37.1%)であり、貨物が重量では1.3%(同じく1.5%)、トンキロでは4.9%(同じく4.6%)である。

1989年１月の１日あたり運行回数をみると、JRの特定地方交通線では、第３セクターへ転換済みの鉄道を含め、20回以下および21～40回の路線が多い。

我が国の基幹的輸送機関で、百有余年の歴史を有した国有鉄道は、1987年４月１日に旅客鉄道会社６社(JR)、および貨物鉄道会社(JR貨物)に分割、民営化され、鉄道事業の新しい体制が発足した。また、1988年春には瀬戸大橋および青函トンネルが開通して、４大島がレールで直結された。

〔凡例と作図の要点〕

この図は、1989年１月における普通鉄道について、旅客列車の平日の１日あたりの駅間通過回数を、運行回数として表示した。運行回数は、上り、下りのそれぞれを１回とした普通、急行および特急列車の合計であり、季節列車や臨時列車を含まない。なお、短小な路線(概ね３km未満)および都市圏において路線が錯雑し、表示することが困難な場合は省略した。

〔主な資料〕

1. 日本交通公社，1989年１月JTB時刻表
2. 運輸省，昭和62年度鉄道輸送統計年報

2. 航空機運航回数と乗降客数

1987年３月31日現在、我が国の国内定期航空は、定期航空運送事業者７社によって、東京、札幌、大阪、沖縄を結ぶ幹線13路線、およびローカル線151路線が運航されている。

1986年１月から12月までの１年間の定期航空の旅客輸送実績は、航空機の運航回数が38万3405回、運航キロメートルが２億3569万892km、運航時間が46万3125時間23分である。旅客輸送人員は4512万1204人で、342億4782万人kmとなっている。また、その座席利用率の平均は60.0%である。我が国の国内総旅客輸送量に対する航空輸送の割合は、人数では0.08%、人キロでは4.0%であるが、人々の高速性に対する指向や、1986年から推進されているローカル線のダブル・トリプルトラック化、新路線の開設、空港のジェット化などによる輸送力の増強もあって、その輸送実績は着実に伸びている。

旅客輸送を路線別にみると、東京～札幌(千歳)が年間運航回数１万8879回(４月の１日平均運航回数は47.1回)で旅客数478万7041人、大阪～高知が１万5541回(41.7回)で77万4988人、東京～福岡が1万5266回(41.3回)で356万4557人、東京～大阪が１万941回(30.0回)で328万4946人となっている。

乗降客数を空港別にみると、東京が2506.7万人で全乗降客数の27.8%を占め、次いで大阪が1315.5万人、千歳が813万人である。

定期航空のほか、定期的な旅客輸送として、いわゆるコミューター航空(小型機による２地点間旅客輸送のうち、不定期航空運送事業によるもの)があり、離島航空路線を中心に、1987年３月31日現在、５社により19路線が運航されている。その年間輸送実績は約19万人である。

〔凡例と作図の要点〕

この図は、1986年４月における定期航空について、旅客便の１日あたり平均運航回数、および、1986年１月から12月までの１年間の、空港別の乗降客数を表示した。なお、運航回数は往路、復路をそれぞれ１回とし、また、定期運送事業者が運航する２地点間旅客輸送の４路線は、定期航空として表示した。

〔主な資料〕

1. 運輸省，昭和61年航空輸送統計年報

3. 船舶運航回数と乗降客数

1987年４月１日現在の内航海運の旅客航路は、812事業者(うち一般旅客定期航路は457事業者)による1299航路(うち一般旅客定期航路は648航路)であり、それに就航する船舶は2358隻(うち一般旅客定期航路は1473隻)、107万1236総t(うち一般旅客定期航路は105万3210総t)である。これらのうち自動車航送航路(フェリー)は178事業者による253航路(うち一般旅客定期航路は249航路)で、船舶は499隻、90万9453総tである。フェリーのうち、長距離フェリー(航路距離が300km以上で、陸上のバイパス的なフェリー)は20航路、48隻、43万総tで、航路距離は１万4689kmである。一般旅客定期航路は、その約８割が運航距離50km未満の航路である。たま、この他我が国とナホトカ、上海、釜山、基隆、高雄を結ぶ四つの国際航路がある。

1986年４月から1987年３月までの１年間の、内航海運の旅客輸送量は1.5億人(うち一般旅客定期航路は1.3億人)、56.8億人km(うち一般旅客定期航路は54.7億人km)である。そのうち、長距離フェリーは400万人、19億人kmである。我が国の国内総旅客輸送量に対する旅客船輸送の割合は、人数では0.3%、人キロでは0.6%である。

1986年４月の一般旅客定期航路の週間運航回数を路線別にみると、鹿児島～垂水および神戸～津名の448回、宇品～呉～三津浜の392回、神戸～洲本の378回が多く、長距離航路では鹿児島～那覇の94回、長距離フェリーでは神戸～小倉の40回、大阪～門司、大阪～別府および神戸～松山～大分の28回が多い。

1986年１月から12月までの１年間の乗降客数を港湾別にみると、神戸が784.9万人、高松が735.5万人、宇野が571.1万人である。

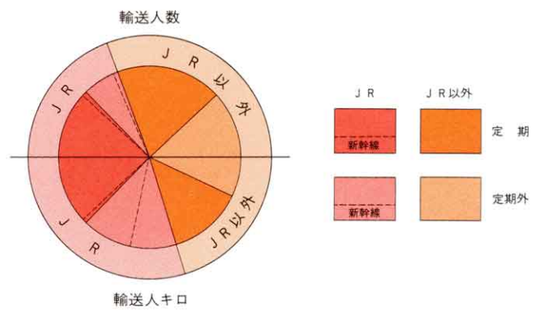
〔凡例と作図の要点〕

この図は、1986年４月における一般旅客定期航路の週間運航回数を、運航距離50km以上の航路について表示した。また、1986年１月から12月までの、１年間の船舶乗降人員のうち、内国航路の港湾別乗降人員について10万人以上の港湾を表示した。なお、運航回数は往路、復路をそれぞれ１回とし、また、乗降客数には、不定期および特定定期航路によるものを含む。

〔主な資料〕

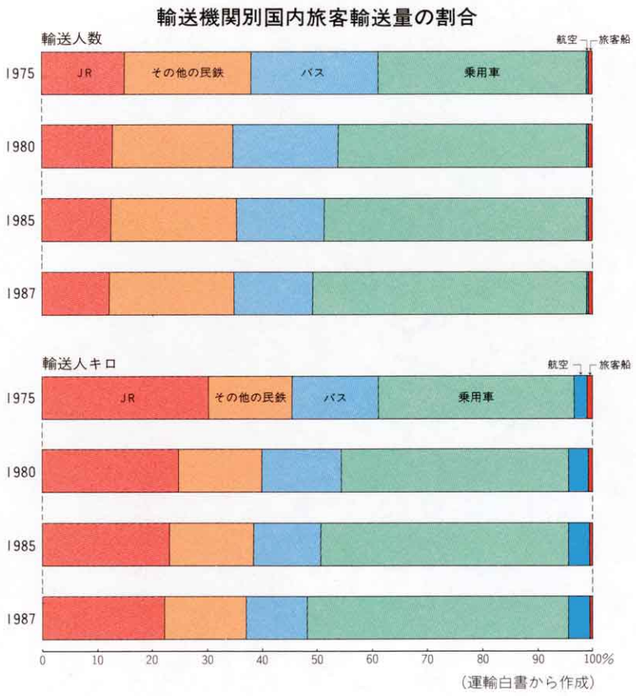
1. 日本旅客船協会，1986年下期号全国フェリー旅客船ガイド
2. 運輸省，昭和61年港湾統計
3. 日本海事広報協会，1989年数字でみる日本の海運・造船

鉄道旅客輸送量の割合(1988)



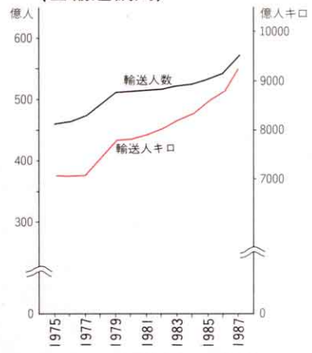
(運輸省資料から作成)

輸送機関別国内旅客輸送量の割合



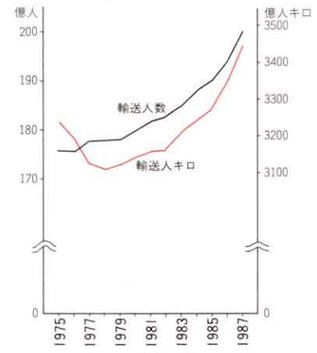
(運輸白書から作成)

国内旅客輸送量の推移
(全輸送機関)



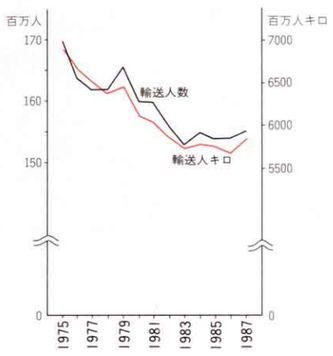
(運輸白書から作成)

鉄道旅客輸送量の推移



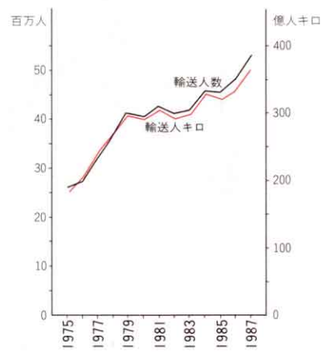
(運輸白書から作成)

内航旅客船輸送量の推移



(運輸白書から作成)

国内航空旅客輸送量の推移

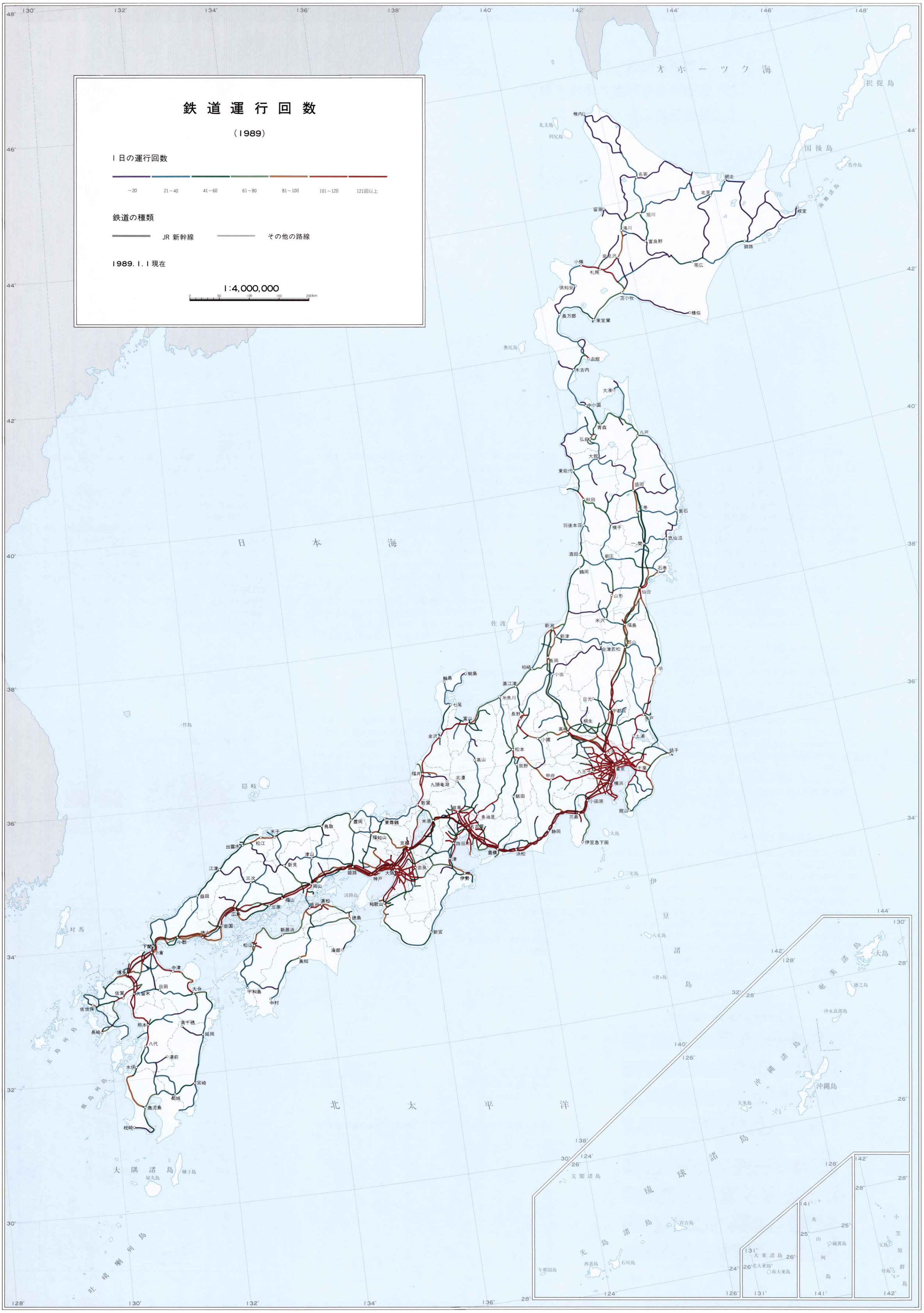


(運輸白書から作成)

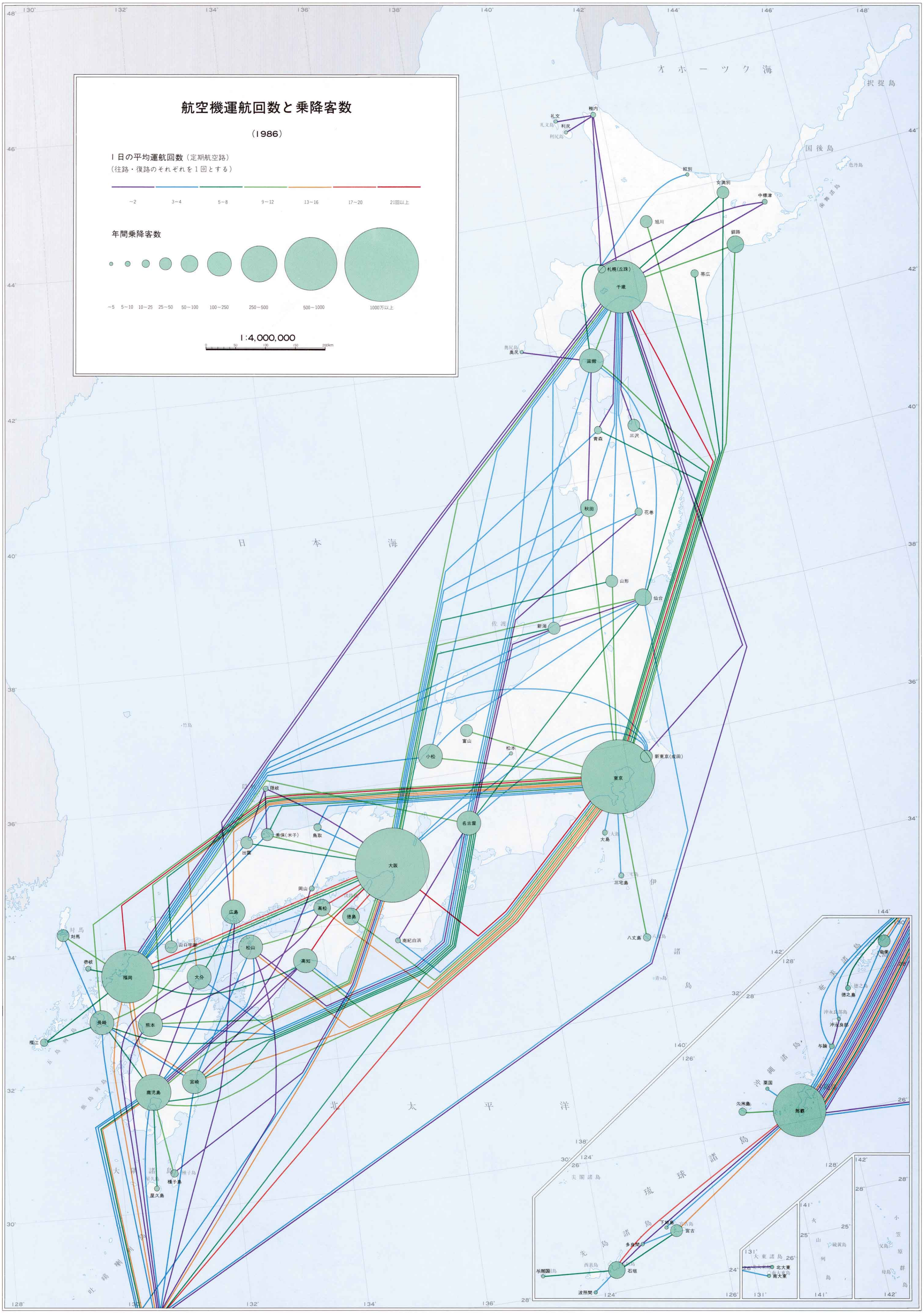
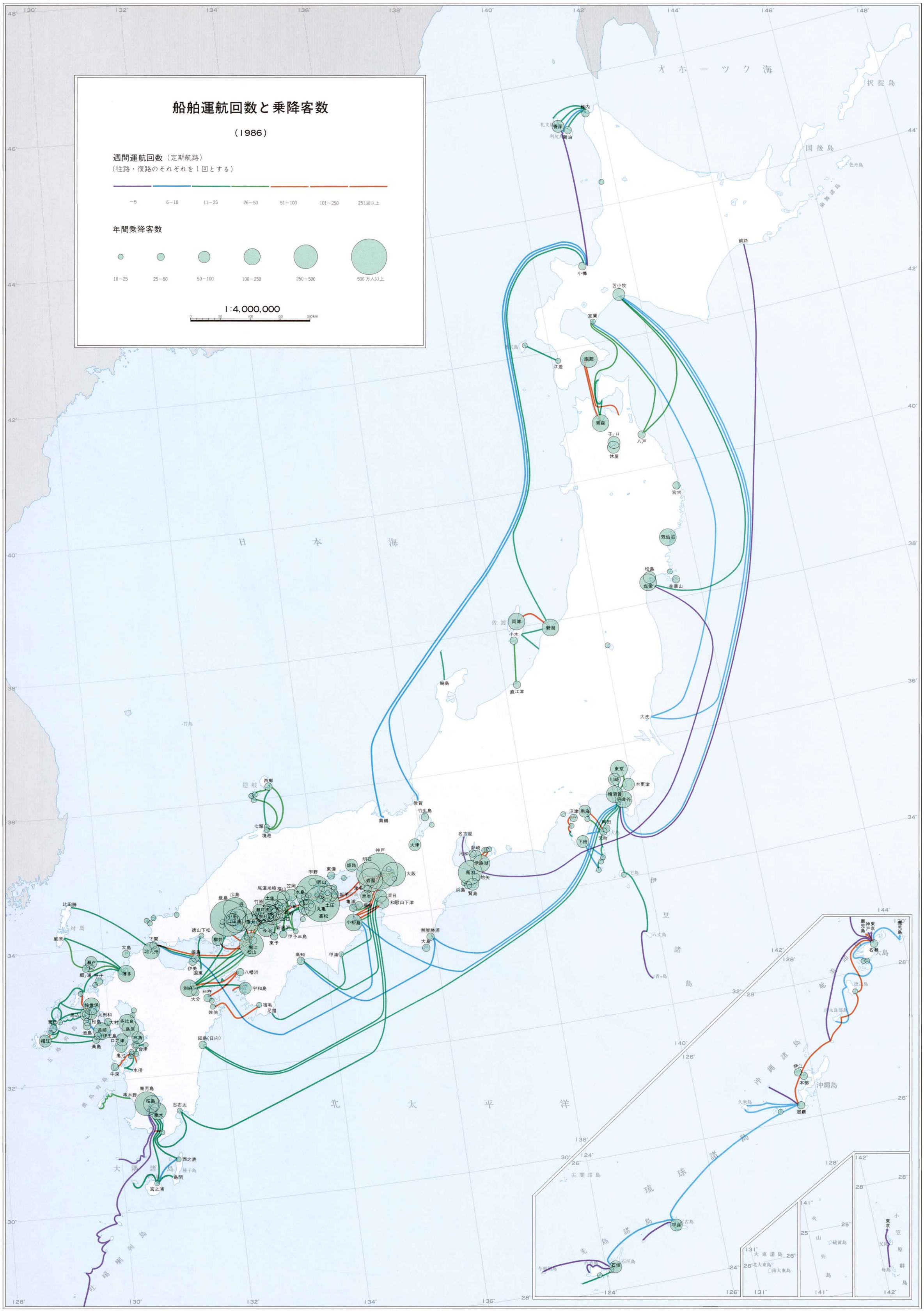
鉄道路線(JR)の電化および複線化区間
(1988)

(運輸省資料から作成)

33.1


鉄道運行回数
(1989)
1日の運行回数
~20
21~40
41~60
61~80
81~100
101~120
121回以上
鉄道の種類
JR 新幹線
その他の路線
1989.1.1 現在
1:4,000,000
オホーツク海
日本海
北太平洋
択捉島
国後島
色丹島
歯舞諸島
礼文島
利尻島
奥尻島
佐渡
隠岐
竹島
対馬
壱岐
五島列島
甑島列島
薩南諸島
大隅諸島
種子島
屋久島
吐噶喇列島
伊豆諸島
大島
三宅島
八丈島
青ヶ島
小笠原諸島
父島
母島
琉球諸島
沖縄諸島
沖縄島
久米島
宮古島
石垣島
西表島
与那国島
尖閣諸島
稚内
名寄
網走
北見
留萌
旭川
根室
滝川
富良野
釧路
岩見沢
小樽
札幌
帯広
倶知安
苫小牧
様似
長万部
東室蘭
函館
木古内
大湊
中小国
青森
八戸
弘前
大館
東能代
盛岡
秋田
石巻
釜石
羽後本荘
横手
気仙沼
一関
酒田
新庄
鶴岡
山形
仙台
米沢
福島
新潟
新津
郡山
会津若松
柏崎
長岡
平
輪島
蛸島
小出
直江津
糸魚川
七尾
日光
長野
宇都宮
富山
桐生
水戸
高崎
土浦
金沢
小諸
銚子
松本
高山
辰野
千葉
福井
甲府
八王子
東京
九頭竜湖
北濃
横浜
飯田
敦賀
小田原
館山
岐阜
多治見
三島
豊岡
東舞鶴
米原
名古屋
静岡
鳥取
米子
福知山
京都
四日市
伊豆急下田
出雲市
松江
豊橋
浜松
津山
津
新見
奈良
江津
姫路
大阪
伊勢
三次
神戸
岡山
益田
淡路島
福山
高松
和歌山
三原
坂出
広島
徳島
岩国
新宮
新居浜
徳山
小郡
松山
下関
小倉
海部
高知
中津
博多
日田
大分
佐賀
久留米
宇和島
中村
佐世保
熊本
高千穂
長崎
延岡
八代
湯前
水俣
宮崎
都城
鹿児島
枕崎

33.2


航空機運航回数と乗降客数
(1986)
1日の平均運航回数（定期航空路）
（往路・復路のそれぞれを1回とする）
~2
3~4
5~8
9~12
13~16
17~20
21回以上
年間乗降客数
~5
5~10
10~25
25~50
50~100
100~250
250~500
500~1000
1000万以上
1:4,000,000
オホーツク海
日本海
北太平洋
択捉島
国後島
色丹島
稚内
礼文
利尻
紋別
女満別
中標津
旭川
釧路
札幌(丘珠)
千歳
帯広
奥尻
函館
青森
三沢
秋田
花巻
山形
仙台
新潟
佐渡
富山
小松
松本
新東京(成田)
東京
名古屋
大島
三宅島
八丈島
隠岐
美保(米子)
鳥取
出雲
大阪
岡山
高松
徳島
広島
南紀白浜
対馬
山口宇部
松山
高知
壱岐
福岡
大分
長崎
熊本
福江
鹿児島
宮崎
種子島
屋久島
奇美
徳之島
沖永良部
与論
粟国
久米島
那覇
宮古
下地島
多良間
与那国
石垣
波照間
北大東
南大東

船舶運航回数と乗降客数